



ギリシアRGCCがん遺伝子検査ラボ ニュースレター

【転移性黒色腫において、CTCsを検出し、特徴を把握することによって、個別的アプローチの機会が可能になり、腫瘍の多様性の問題が解決されます。】

J InvestDermatol. 2015

Circulating Melanoma Cell Subpopulations: Their Heterogeneity and Differential Responses to Treatment.

(循環黒色腫細胞集団:その不均質性と治療への様々な反応)

Gray ES, Reid AL, Bowyer S, Calapre L, Siew K, Pearce R, Cowell L, Frank MH, Millward M, Ziman M.

論文要旨

転移性黒色腫は、非常に不均質な腫瘍である。従って、血液中を循環している腫瘍由来の細胞を分析する手法によって、この不均質性に対処すべきなのである。この事を考慮に入れて、マルチパラメーターフローサイトメトリーを用いて、40の晩期ステージ(III-IV)と16の初期ステージ(I-II)の黒色腫患者の個別の循環腫瘍細胞の、黒色腫マーカーの黒色腫細胞接着分子と黒色腫関連コンドロイチン硫酸プロテオグリカンと腫瘍開始マーカーのATP-結合カセットサブファミリーBメンバー5(ABCB5)、CD271、そしてNF- κ B(RANK)の受容体活性化因子の同時発現を分析した。CTCsの性質は、患者間で一貫性が無く、分析された5つのマーカーの同時発現は、限られていた。血液と転移腫瘍を適合させた患者分析において、この固形腫瘍においてよりもCTCsにおいて、ABCB5とRANKのサブポピュレーションの頻度が高い事が、明らかにされ、これらの細胞が選択的に循環中に放出されている事を示唆している。治療開始前と治療開始後6-13週間後のCTCsサブポピュレーションの対比較によって、標的治療を受けた患者で、RANK(+)CTCsのパーセンテージが、有意に増加している事が示された(N= 16, P<0.01)。さらに、標的治療を受けた患者の血液中に ≥ 5 RANK(+) CTCsが存在する事が、より短い無増悪生存率の予後因子であった(危険率8.73, 95%信頼区間1.84-41.75, P <0.01)。以上の事をまとめると、我々の研究結果から、黒色腫細胞のCTCサブポピュレーション内の不均質性の証拠が得られ、これらのサブポピュレーションが標的治療に多様に反応している証拠が得られた。

各位

R.G.C.C. 社ニュースレターのアブストラクトの訳を配信致しました。
原文をご希望の際はお申し付けください。

会員向けの無料配信がございます。

<https://www.rgcc-group.com/index.php?page=newsletter>

にてお名前とEmailアドレスを入力の上、ぜひご登録をお願い致します。

ここに登録頂きますと、以下の情報が配信されます。

- ・ R.G.C.C.社ラボとコンタクトを持つ世界中の医師からの質問とそれへの返答内容。
- ・ 世界中のがんの専門医から寄せられる論文、治療の手法、意見、アイデア、CTCにかかわる世界の学会情報などの共有。
- ・ R.G.C.C.社ラボにおけるCTC、CSC、天然成分由来の抗がん治療製剤開発などにかかわる最新情報の配信。
- ・ CTC、CSCに基づき治療された患者群のフォローアップ統計の推進(これは再検査の際に提出される患者フォローアップシートへの記入がもととなりますので、ぜひご協力のほどお願い申し上げます)。

以上ですがぜひ、このサークルを広め役に立つ情報の共有を推進したくご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

株式会社デトックス